

連合運動会を終えて

6年1組担任 村松 静香

6年2組担任 黒川 洋

天気が心配されましたが、10月24日（火）に夢の島競技場で港区連合運動会が行われました。

朝練習や体育の授業で練習に励み、力を付けてきました。

100mを直線で走ることができる本格的な設備が整った競技場で全員が思い切り体を動かすことができました。始めは大きな競技場に緊張した様子も見られましたが、どの子も自分の出場した競技に練習の成果を発揮することができました。

また、競技中の友達に対し、懸命に声援を送るなど学年が1つになって取り組むことができました。

東町小の代表としてふさわしい態度で全力を出し切った大満足の連合運動会となりました。



3年生について

3年1組担任 山崎 修一

3年2組担任 村上 尚子

3年生から理科、社会科、総合的な学習の時間、算数の少人数指導が始まりました。

理科では、自然の観察を通して、比較して違いを見付ける学習をしました。また、実験では、問題を把握する・予想を立てる・実験する・結果を整理する・考察をするなどの学習の流れを学びました。

社会科においては、地域学習を通して、東町小学校近隣の特色をまとめました。また、スーパーマーケット見学を通して、商店の工夫や苦勞を学びました。

総合的な学習の時間には、課題を設定する・資料を集める・まとめる・発表するという学習の流れを学びました。そして1学期には港区の特色についての地域学習、2学期は世界について知る国際理解を行いました。

算数の少人数指導では、学級の垣根を取り払い、少人数になることで、1組と2組の児童の交流が生まれ、教え合いや学び合いの姿も見られました。定期的にクラス替えをすることで、担任2人と算数少人数教員が協力して、学年児童全員を理解して指導に役立てています。

いよいよ学期末です。子供たち一人一人が、達成感・成就感をもって学期を終えられるように学習してきたことをしっかりと定着させていきます。

音楽的な成長とは？

音楽専科 畠中 圭一

私が大学生の時、作曲科の先生からこんな質問をされたことがありました。「畠中君、『音楽的に成長する』ということを一言で表すと何だと思う？」

「音楽的な成長」と一言で言っても、音楽活動には歌唱や器楽など、様々な分野が存在します。歌唱であれば、正確な音程で歌えるようになることや音域が広がること、楽器の演奏であれば、指が速く動くようになることやリズム感が養われることなども当然成長のひとつであります。それらを全て総括して、音楽における成長を一言で表すとすると、どのようなことが考えられるだろう？と返答に詰まり、先生の質問には答えることができませんでした。

「その答えはね、『今まで聞こえなかった音が聞こえるようになること』だよ」と先生はおっしゃいました。確かにその通りだと納得しました。それはもちろん、物理的に耳が良くなるということではなく、音楽的な技術の向上や経験の積み重ねによって、今まで注意して聴くことのなかった音を聴き取ることができるようになるということです。これは音楽に限らず、人間的な成長にも応用できる話であると、最近つくづく感じます。何か目標に対して相応の努力をして達成した後は、それによって身に付けた技術だけでなく、今までになかった物の見方や考え方を会得していることが多いと思います。音楽的な成長と人間的な成長は、その過程の根本が同じだということです。日々の授業において音楽的な成長を支えながら、子供たちの人間的な成長を見守っていきたくと考えています。

本校の国際科教育について

国際科主任 山崎 修一

港区では、平成14年から英語活動を実施してきました。そして、平成19年度から教育課程に教科として「国際科」を位置付け、外国人講師（NT：ネイティブティーチャー）を各校に配置し、英語指導を行っています。週に2回の国際科の授業があるのは、英語活動に力を入れる港区の特色の一つです。

本校では、国際学級の導入に伴い、国際科の授業を進めていくにあたり「習熟度別学習」を取り入れました。自分の英語スキルに応じたクラスにより、英語のコミュニケーション能力の向上を図っています。

授業では、本時のターゲットセンテンスをめあてにして、単語だけでなく、文章で英語を発話する練習をしています。

また、本校では、たくさんの外国籍児童がいるので、朝会や集会、お昼の放送、朝の会、授業のあいさつなどの場面で、英語を聞いた話したりする場面を設けています。

英語の語彙を増やし、コミュニケーションスキルを向上させることも大切ですが、世界にはたくさんの国々があり、それぞれの文化の違いを知り、尊重することも大切な国際理解教育です。世界で活躍できる国際人を育成するため、違いを認め合う指導を日々の授業においても行っています。